



小牛田小学校

リーダー・イン・ミー通信

小牛田小学校のリーダー・イン・ミーの取組を紹介します！

令和3年5月27日 第2号
小牛田小学校ライトハウスチーム
<http://kogota-es.misato-ed/>

7つの習慣とは、人生を豊かに（金銭的な意味ではありません）送るために身に付けたい習慣のことです。今回は、7つの習慣について、具体的に紹介してみたいと思います。

第1の習慣 主体的である

80点のテストが返却されました。ある人は、満足して間違えたところを復習しません。ある人は、自分が間違えたところを復習し、次に備えます。受けた刺激をどう受け止め、次にどう行動するかは、自分で決められます。どちらが自分の将来のプラスになるかは、明白だと思います。

第2の習慣 終わりを思い描くことから始める

図面を書かずに家を建て始める大工さんはいません。もし書かずに建て始めたら、怖いですね。でも、私たちはよく終わりを考えずに物事を始めてしまうことがあります。終わりの姿を思い描いて取り組んだ方が、よい結果につながりやすいですよね。

第3の習慣 最優先事項を優先する

宿題をしなければいけないのは分かっているけど、ゲームをしてから、テレビを見てからと伸ばし伸ばしにして後から苦しい思いをした。なんていう経験を誰でも持っているでしょう。本当に自分に必要なことは何かを考え、それを最優先する。そんな習慣です。

第4の習慣 Win-Winを考える

人間関係には、右の6つのパラダイムがあります。人間は、社会生活を営む上で、1人では生活することができません。誰かと関係を持ちながらしか生活を営むことができません。望ましいのは、Win-Winの関係ですよね。頭では分かっていても、Win-LoseやWinを考えてしまうことがあります。Win-Winを目指すことを習慣づけようというのが第4の習慣です。

	自分	相手
1	Win	Win
2	Win	Lose
3	Lose	Win
4	Lose	Lose
5	Win	
6	No Deal	

第5の習慣 まず理解に徹し、そして理解される

ある人が、視力が落ちてきたので、眼科に行きました。医者はしばらく話を聞くと、あなたに自分の眼鏡を渡して、こう言います「かけてごらんなさい。10年使いましたが、いい眼鏡ですよ。あなたに差し上げましょう。」「ダメです。見えません。」「おかしいなあ、いい眼鏡なのに、もっと頑張ってよく見てください。」「ダメです。」「なんていう人だ。私がこんなにもあなたの力になろうとしているのに。」医者が怒り出しました。こんな眼科はないとは思いますが、相手の話をよく聞くという習慣が第5の習慣です。

第6の習慣 シナジー(相乗効果)を創り出す

「3人寄れば文殊の知恵」力を合わせれば、文殊菩薩のような力を発揮するという諺です。皆さんも経験があるのではないかでしょうか。私は何度もあります。先日行った運動会、土日の朝は、水取をしました。スポンジで水取をしたのですが、どうやったら効率的に水をとれるかを皆で工夫しました。きっと1人で作業していたら自分のやり方に固執して、効率的な水取につながらなかったと思います。

第7の習慣 刃を研ぐ

森の中で必死で木を切る人に出会いました。「何をしているんですか。」「見れば分かるだろう、木を切っているんだ。」「疲れているみたいですね。いつからやっているんですか。」「もう五時間だ。」「少し休んで、のこぎりの刃を研いだらどうです？そしたら、はかどりますよ。」「切るのに忙しくて刃を研ぐ時間なんてあるもんか。」自分を成長させる時間を確保する習慣が、第7の習慣です。

リーダー・イン・ミー こぼれ話

令和3年5月19日(水)の3時間目、6年生の教室では、LIMに関する授業が行われていました。

担任の伊藤聰志先生は、運動会に取り組む6年生の姿を見て、「6年生として頑張っていないわけじゃないけど、周りに伝わっていない」と残念に思っていました。「もっと自分たちで考えて、自分たちで動き出して欲しい。主体的になって欲しい。」という願いを込めてこの授業を行いました。



第1の習慣 主体的である

黒板の頭に「伝染→うつる」「気持ち、態度、やる気は他人にうつる」と書いてあります。その後には、子どもたちが今までの自分たちを振り返った内容が書かれています。「動きがだらだら」「姿勢態度がよくない」「あきらめる」「つまらなそう」「動きがイマイチ」

その後には「つもりだと足りない」と書いてありました。伊藤先生にどんな意図かを聞くと「自分では頑張っているつもりでも、それだけじゃ足りない。6年生の自分の姿

が下級生にどう見えているかを考えてほしい。」と話してくれました。そして、黒板には、『「本気」「全力」もうつる。』と書かれています。次は、子どもたちの考えです。「動きを見ている人が気持ちよく」「姿勢、態度をしっかり(伸ばす、下を見ない)」「お手本」「あきらめない」「楽しそうに(表情・笑って)」「ダンスの動きを大げさにお手本のように」と書かれていきました。

授業の翌日20日からの6年生の動きは、見事に変わりました。26日の運動会で見せた姿はその集大成でした。最高学年としてお手本となるような動きを見せてくれました。見事でした。運動会直後に書いた6年生の作文を紹介します。(小松英明)

楽しく、全力でできた運動会 S.N

私は、自分の中で良くなつたことがこの運動会の練習や授業がありました。

自分の中で、成長したと思うことは「何事も全力で」「すぐにあきらめない」です。伝染の授業をする前は、できないことはすぐあきらめるなど6年生としてふさわしくないことが多かつたと思います。授業の後「私は変わらない」と思い、自分のダメなことを少なくしようと努力しました。特に努力したことは「いつも全力で」です。それを意識しました。意識して生活し、運動会の全体練習でも全力でできたと思います。そして、今日の運動会当日では、体育環境委員として、みんなの前で体操、整理運動をしました。動きをハッキリする、右、左を間違えないを意識してできたと思います。障害物競走、徒競走、ダンス、1人組体操も練習どおり、全力でできました。小学校生活最後の運動会、みんなで楽しくでき、最高の運動会でした。

頑張らなきゃ、力は伸びない Y.S

自分は、いつも「やっているつもり」で見られていると、気づいてはいました。ですが、直せませんでした。つかれていたからです。家に帰って、休む時間があるのに遅い時間まで起きていたり、だらだらムダな時間を過ごしていました…。本当に何をしていたんだと、今では思います。そんな生活と練習をしては、当然力は伸びません。

ある日、練習をしていると、先生にしかられました。いや、しかってくれました。ありがたかったです。先生が、自分が変わるきっかけの時間をくれました。振り返ることができて、もう、こんな生活をやめよう!というきっかけができました。つかれがなくなると、こんなにも嬉しい気持ちになるのでしょうか?その日から全力で、「やってるつもり」から「本気でがんばる」に目標を変えました。友だちや先生たちにすぐに気づいてもらって、嬉しく思いました。そのままがんばって続けて、本番が終わって、「がんばらなきゃ、力は伸びない」ことが分かりました。この失敗は、自分にとって、成長のできる、大事なカギだと思いました。この言葉を忘れないように、毎日の生活に取り入れようと思いました。